

## 住民のやらされ感を払しょくし、 信頼される体制をどうつくるか

### 提 言

住民がやらされ感なく主体的な活動を実施し、  
継続できる体制を構築するためには、  
行政や社協などの関係者が住民と足並みを揃え、  
目線を同じ高さに置きながら、  
住民と共に考える体制を整えよう。  
そして住民の声を大切に、  
助け合いを点から面へ広げていこう。

### 登壇者

【進行役】	目崎 智恵子	(公財) さわやか福祉財団、高崎市第1層SC
	松浦 博子氏	軽米町健康福祉課
	中里 早苗氏	軽米町第1層SC
	生方 由美子氏	高崎市第1層・第2層協議体メンバー
	中家 裕美氏	岬町第1層SC
	貝長 誉之氏	(社福) 太子町社会福祉協議会地域包括推進室長 (元第1層SC)

#### ■ 寄せられた声から

- 社協の1層SCです。組織のしぼりの点で、また行政との連携の点で、SCである自分自身が「やらされ感」を持っていたことに気付きました。また明日以降、地域で頑張れそうです！！
- SCの立場として目線を合わせる、黒子になる、助けを求める等、それぞれ大切にされている思いは違い、正解がないことを改めて感じました。
- 「わからないことは住民に聞こう」という貝長氏の発言がありました。その通りだと思いました。地域の事は住民がよく知っています。住民の目線で！と頭で理解していたつもりでしたが、この言葉で、地域の中に入っていく原動力をさらに後押しされた気がします。

## 議事要旨 目崎 智恵子

住民のやらされ感を払しょくし、信頼される体制をつくるには、行政やSC、社協、包括などの関係者が足並みを揃え、目線を住民と同じ高さに置きながら、バックアップという役割を果たすことが重要である。大阪・神奈川サミットでは、住民のやらされ感を払しょくするには、まず地域の状況を知り、助け合いの必要性を自分事として理解し、仲間と助け合うことにいきがいを感じるよう、住民の心を動かすための働きかけが必要であり、そして住民から信頼される体制をつくるには、行政主導で形だけをつくるのではなく、地域住民に働きかけ主体的な意思を引き出し、多様な方々を巻き込みながら、住民と共に体制を構築する。そして住民が助け合いの必要性を理解し、主体的に取り組むために、行政やSCと協議体構成員を含め本事業に関わる人々の意識合わせ（規範的統合）が、信頼される体制づくりの前提であることが確認できた。

ではどのように働きかけを行い、事業を継続させていくのか。住民がやらされ感なく助け合いを形にして、継続・発展させている4市町の取り組みのプロセスと、多様な手法について事例紹介いただき、その仕組みができたポイントについてまとめ、自由議論を行った。

大阪府太子町元SC貝長誉之さんは、初代SC。今年度から3代目のSCが活動中。太子町の活動が継続している背景には、住民、行政、SCが同じ方向を見て目線を合わせ、これからの困りごとを解決するために、みんなで考える場を大切に取組んできたからだ。行政・SCが変わっても、方向・質が変わらぬよう、顔の見える関係づくりと、SCが今までの流れを知り、共有することを大切にすることで、住民から信頼される体制を継続している。

大阪府岬町第1層SC中家裕美さんは、SCが住民の

やりたい気持ちを大切に、地域のニーズを丁寧に聞き取り、住民と共に楽しみながら助け合う地域づくりを行っている。住民同士の主体的な活動に常に寄り添い、黒子となり伴走し、行政と共に、活動が継続できる仕組みづくりを行っている。

岩手県軽米町の行政の松浦博子さんとSCの中里早苗さんは、協議体とSCが一丸となって地域に根差した活動を行い、町内の様々な方の協力を得て、共生型常設型の居場所を作った。いつもみんなで、自分にできることはないかを考え続けること。住民の個性や特技、人脈やアイデアを持ち寄ること。SCや行政は、住民の伴走者であることを意識し、一体感を味わうことで活動が生まれ、継続している。

高崎市第1層・第2層協議体メンバーの生方由美子さんはこう語った。高崎市の協議体は、目指す地域像を共有し、住民が信頼関係を築き、各々の力を活かせる場になっているからこそ、行政担当が変わっても、住民が主体的に動ける体制が継続でき、助け合いが創出されている。

まとめとして、住民が主体となる活動を継続させるには、その活動の発展などに伴う変化に対する関係者の対応力が必要で、協議体やSCを配置しただけではなく、協議体を維持させる関係者のバックアップ体制を継続することが重要。住民の信頼に基づく仕組みを「継続」させるには、定期的な連絡会や戦略会議などを実践し、現場との距離感をなくし形骸化させないこと。

この分科会では、住民がやらされ感なく継続できる体制を構築するためには、行政やSCなどの関係者が住民と足並みを揃え、目線を同じ高さに置き、住民と共に考える体制を整え、住民の声を大切に、助け合いを点から面へ広げていこうとまとめた。

### アンケートの結果 参加者概数：227名 回答者数：87名

